

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 27 日現在

機関番号：34418

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320079

研究課題名(和文) 東アジア(日本・中国・韓国)における河川船歌の研究

研究課題名(英文) A study of River Boat Songs in East Asia (Japan, China and South Korea)

研究代表者

真鍋 昌弘 (MANABE, Masahiro)

関西外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：70084168

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,900,000円、(間接経費) 2,970,000円

研究成果の概要(和文)：東アジア(日本・中国・韓国)における船歌(特に船曳歌)の研究を行い、大きな成果を得た。日本では熊野川・高梁川・旭川・最上川・淀川、中国では長江・漢江・黄河、韓国では洛東江・漢江において、録音・ビデオおよび写真による撮影・インタビューを通して、また関係するあらゆる文献資料を蒐集して、基盤的研究を行った。三箇国におけるこの分野の対照比較研究ははじめである。具体的なこの学術調査研究の成果は、報告書『河川の民俗文化と船曳歌 日本・中国・韓国』(平成26年3月)として出版した。

研究成果の概要(英文)：This is basic research of River Boat Songs (especially the Boat-Drawing Songs) in East Asia (Japan, China, South Korea). The fieldwork was conducted on the River Kumano, River Takahashi, River Asahi, River Mogami, and River Yodogawa in Japan; the River Choko, River Kanko and River Koga in China; and the River Rakutoko and River Kanko in South Korea. The fieldwork includes audio and video recording, photographs and interviews. The written materials pertaining to these districts were collected, and living folklore and beliefs were focused upon, and the common elements and distinctive aspects about the Boat Songs in these three countries were examined. This topic was chosen for the very first time and the research achieved great results.

研究分野：人文学分科学

科研費の分科・細目：各国文学・文学論

キーワード：歌謡 民謡 船歌 東アジア 比較 文献資料 実地調査 民俗

1. 研究開始当初の背景

日本・中国・韓国における歌謡（特に民謡）の研究はそれぞれの国で行い、国際的交流がほとんどなく、比較研究も少なかった。そこで東アジアの河川船歌（特に船曳歌）の比較研究を通じて、相互に関連の深い3カ国の伝承文芸や生活文化、さらには国民性の考究に寄与することを企図した基盤的比較研究が必要であった。

2. 研究の目的

(1) 日本・中国・韓国における河川船歌にかかわる歌謡資料の網羅的蒐集・整理。

(2) 日本・中国・韓国における現存河川船歌（特に船曳歌）の現地調査。

(3) 歌謡研究の比較検討に基づいた共同研究およびその成果の公刊。

3. 研究の方法

(1) 日本・中国・韓国の海外研究者および伝承者と密接な連絡を取りながら効率的に作業を積み上げた。

(2) 定期的に会合を設けて作業のまとめを行い、研究計画の実施へ向けて、内容・方法などについて議論を行った。

(3) 3カ国において、真鍋が講演を行い、研究者の研究会を設け、歌謡資料の整理・現地調査の結果などをめぐって比較研究を行った。

4. 研究成果

研究計画に基づいて、次の研究成果を収めることができた。

(1) 日本・中国・韓国における歌謡文献収集と調査を行い、比較研究に必要な基本資料を購入・複写した。それに基づいて、3カ国の歌謡資料文献目録を作成した。

(2) 国内・国外の各地域に赴いて現地調査を行い、多くの研究者・船運に関わった人々にインタビューを行い、調査結果をまとめた。

中国の調査では、まず長江中流地域の湖北省巴東県・宜昌市・秭歸市の現地調査を行った。宜昌市においては長江中流地域における船歌をめぐる座談会を行い、秭歸市にて現地の船工号子伝承者6人を対象として、長江中流地域の船歌に関する聞き取り調査を行った。

湖北省巴東県においては、中国の研究者の協力を得て、長江支流の神農溪における船歌の聞き取り調査と、長江中流地域における船歌の聞き取り調査を、かつての船頭5人に対して行い、船曳文化を観光事業として開発した現地の状況を考察した。

漢江流域の港であった湖北省十堰市と襄陽市においては、漢江における船歌の聞き取り調査を、四川省南充市においては、長江上流地域にあたる嘉陵江における船歌の聞き取り調査を、それぞれ中国の研究協力者とともにいった。

山東省済州府においては、黄河流域における船歌の聞き取り調査を、現地の研究者の多大なる協力のもとにいった。

四川省成都市を訪れた際には、都江堰を見学し、古代からすでに大がかりな河川土木工事が行われていたことを知り得た。また、金沙江遺跡博物館を見学することができ、船歌研究の背景について考えることができた。

福建省福州市においては、市内を流れる閩江を調査し、閩江を守る臨水夫人の廟を訪れ、現地の水神信仰について調査研究することができた。

韓国の調査では、まず洛東江における船歌の聞き取り調査を、韓国の研究協力者とともに、釜山広域市と慶尚南道三浪津において行った。2人の調査対象者にインタビューを行っただけでなく、洛東江を遡りながら、かつての6つの船着き場をめぐる、研究調査を行うことが出来た。

京畿道河南市においては、漢江における川舟に関する聞き取り調査を行い、かつての港であった忠清北道忠州市牧溪においては、漢江における船歌の聞き取り調査を行った。

さらには、忠清北道丹陽郡においては南漢江の、江原道麟蹄郡においては北漢江の筏に関する聞き取り調査を、韓国の研究協力者の協力を得て行った。

江原道洪川郡においては、北漢江支流洪川江における筏に関する聞き取り調査を、韓国の研究協力者の協力を得て行った。

また、ソウル近郊に居住する船大工を対象にした聞き取り調査も行った。

日本においては、まず和歌山県・熊野川の調査を実行した。中国から研究協力者として依頼している民俗学研究者3名を招き、本宮町教育委員会の民俗学の専門家、および船頭に出席してもらって、近代における船運・船曳き・民俗信仰について聞き書きを行い、座談会をもって詳細に実体を把握した。また熊野川を往来した平田船の船大工さんにも、作り方をはじめ現代観光民俗としての展開についても話し合った。

岡山県を流れる三大河川 高梁川・旭川・吉井川についても、韓国から民俗学の研究協力者3名を招いて、それぞれの船曳歌・船運を4日間にわたって調査した。この三大河川については、それぞれすでに先学によって、個々には民俗学の調査は行われているが、東アジアという

視野で多くの成果があった。

この他、山形県最上川、福井県九頭竜川、長崎県本明川、福岡県筑後川、ほかについても現地調査・文献調査の成果は非常に大きい。

中国・韓国で聞き取り調査を行った記録は、すべて文字起こしを行い、日本語訳も済ませた。現地調査においては、現地の研究協力者の協力を得ながら、事前に作成した質問項目に基づいてインタビューを行ったので、研究目的に関係する内容はすべてインタビューに盛り込まれた。

特に、中国におけるインタビュー調査は本研究が初めてであり、貴重な第一次資料を得ることが出来た。

(3) 歌謡文献収集と調査、および現地調査の機会に、現地の研究者と交流を展開し、共同研究の基盤を作った。また日本・中国・韓国の大学・学会・シンポジウムにおいて本研究を取り上げて講演を行い、本研究をめぐる研究発表を行った。特に中国においては、山東省斉河県の現地調査の折に、山東大学民俗学研究所で、真鍋が本研究をめぐる講演を行ったほか、湖北省巴東県において「船歌文化」国際シンポジウムが開催された折には、真鍋が招待を受け、講演を行った。また四川省成都市の現地調査の折には、四川大学文科楼251 会議室において真鍋が歌謡研究の基本的な方法について講演する機会を得、日中大学間のなごやかな交流が行われた。

(4) 2012・2014 年には本研究にかかわった3カ国の研究者を日本に招き、それぞれ和歌山県熊野川、岡山県高梁川・旭川・吉井川を実地調査し、東アジアにおけるはじめての比較研究の成果を得た。大きな成果をあげた。

和歌山県熊野川における船歌の実地調査には、中国の研究協力者を招き、熊野川の船歌・船運をめぐる、かつての船頭及び船造りの大工を対象に聞き取り調査を行った。

岡山県高梁川・旭川・吉井川における船歌の実地調査には、韓国の研究協力者を招き、岡山県の三大河川の船歌・船運に関する調査を行い、高瀬舟にゆかりのある土地をめぐる歩いた。調査中、総社市秦にある石畳神社の磐座と、その下を流れる高梁川を見学して、この磐座が高梁川船運を見守る重要な場所であることを確認出来たことは、本調査において大変有益であった。また、枚方を流れる淀川の現在の様子と、枚方市立枚方宿鍵屋資料館も見学し、くらわんか船や淀川の船曳の様子を、韓国の研究者たちに紹介することもできた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

〔雑誌論文〕(計8件)

真鍋昌弘、「河川における船曳歌とその環境」、『日本歌謡研究』、査読有、第50号、2010、89-99頁

牛承彪、「中国・韓国における船歌」、『日本歌謡研究』、査読有、第50号、2010、101-108頁

真鍋昌弘、「河川船曳歌 日本・中国・韓国」(上)、『東方』、査読有、第362号、2011、2-6頁

真鍋昌弘、「河川船曳歌 日本・中国・韓国」(下)、『東方』、査読有、第363号、2011、7-9頁

真鍋昌弘、「船曳きと船曳き歌 生命力にささえられた文化」、『巴文化』(中国)、査読無、総第28巻、2012、4-6頁

牛承彪、「韓国洛東江と中国神農溪における船歌文化」、『巴文化』(中国)、査読無、総第28巻、2012、7-14頁

真鍋昌弘、「河川船曳歌とその文化 日本・中国・韓国」、『歌謡 研究と資料』、査読有、第12号、2012、1-19頁

真鍋昌弘、「河川船曳歌 日本・中国・韓国」、『日本歌謡研究』、査読有、第53号、2013、9-18頁

〔学会発表〕(計5件)

(1) 学会発表

真鍋昌弘・牛承彪、「船曳歌と拉絳号子」、日本歌謡学会平成22年度春季大会、2010年5月16日、南山大学

(2) 講演

真鍋昌弘、「河川船曳歌とその風景 日本・中国・韓国をめぐる」、私立大学図書館協会西地区部会阪神地区協議会、2011年2月25日、関西外国語大学中宮キャンパス

真鍋昌弘、「船曳きと船曳き歌 生命力にささえられた文化」、『船歌文化』国際シンポジウム(招待講演)、2012年4月18日、中国湖北省巴東県
真鍋昌弘、「馮夢龍『山歌』と日本中世歌謡」、『馮夢龍学会(招待講演)』、2012年10月19日~21日、中国江蘇省蘇州市

真鍋昌弘、「東アジアにおける河川船曳歌の研究」、『創立50周年記念日本歌謡学会平成25年度春季大会』、2013年5月18日、関西外国語大学中宮キャンパス

〔図書〕(計2件)

真鍋昌弘、和泉書院、『中世歌謡評釈 閑吟集開花』、2013、554頁

真鍋昌弘・牛承彪、関西外国語大学真鍋昌弘研究室(非売品)、『河川の

民俗文化と船曳歌 日本・中国・韓国
』（文部科学省科学研究費による
調査研究報告書）2014、568頁

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

真鍋 昌弘 (MANABE MASAHIRO)

関西外国語大学 外国語学部・教授

研究者番号：70084168

(2) 研究分担者

牛 承彪 (NIU CHENGBIAO)

関西外国語大学 国際言語学部・准教授

研究者番号：20460842

(3) 連携研究者

()

研究者番号：